

ねらい…『一人ひとりの保育士等が自らの保育を振り返り、取り組んでいることを再確認し  
更により良い保育に向けて課題を明確にしていく』

項目	内 容	意 見
保育の理念	優しい笑顔で語りかけ、心のもった援助をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連絡を密にとりながら、一人一人が心地よいと感じるリズムで生活できるように努めた。</li> <li>・衛生面では、ウイルス感染が広がらないように、職員間で情報の共有、対処に努めた。</li> <li>・固定遊具の点検、戸外遊びチェックカード等、子どもたちが安全に遊べるよう事故防止をしている。</li> <li>・月一回の職員会では、研修会参加後の復命をし、全職員が共有できるようにしている。</li> </ul>
	生活のリズムが身に付くように、繰り返し話したり、行動している。	
	指導計画に沿った、見通しを持った保育をしている。	
	個々の発達に寄り添いながら躰のバランスを考え保育している。	
	子どもが甘えられる雰囲気を持っている。 (雰囲気を作る努力をしている)	
	環境を整え、保育の内容や方法に配慮している。(保健、衛生)	
	自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い、研修報告等を通じて、必要な知識や技術の修得、維持及び向上に努めている。	
子どもの発達援助	保育実践や保育内容に関して他の職員と共通理解を図り、協働性を高めている。	
	子どもの思いを大切にしながら対応している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制止や禁止のことはばを用いないようにと、心掛けているものの咄嗟に出してしまうことがある。なぜ、ダメなのかを伝えたり、声かけを工夫したり、自分の心にも、時間にもゆとりをもち、子どもをせかせかせないよう気を付けなければと改めて反省した。</li> <li>・子どもの手本となるような行動の意識が低いような気がするので、子どもたちに見られているという意識を常に持ち自覚しなければと思う。</li> </ul>
	食事・排泄のしつけを個に合わせて工夫している。	
	安心して過ごせるよう生活環境を整える努力をしている。	
	「早くしなさい」とせかす言葉や「だめ」「いけません」など、制止や禁止のことはばを用いないようにしている。	
	個の発達段階によって、可能な目標を定め、個にあわせて援助をしている。	
	子どものサインを見逃さず対応している。	
	一人ひとりの声や活動をキャッチし、全体にも気を配っている。	
	子どもとの温かなやりとりやスキンシップを心掛けている。	
	子どもの気持ちに寄り添い、共感し過ごしている。	
	待ってもらっていることに気づいたり、待つことができる子どもを育むよう配慮している。	
子どもが手本にしたり、真似したりできる行動を意識してとっている。		
保護者支援	体調不良、食物アレルギー、発達支援が必要な子ども等、一人ひとりの子どもの心身の状態等に応じ、囑託医、かかりつけ医の支持や協力の下に適切に対応している。	
	一人ひとりの保護者と、子どもの成長の喜びを共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児相談には、丁寧に対応し、一緒に考えアドバイスをしたり成長を共に喜び合ったりした。</li> <li>・子どものプライバシーの保護には、十分気を付け、一つ一つ承諾を得るようにしている。</li> </ul>
	気軽に話しやすい雰囲気作りが出来ている。	
	保育内容および質問に対して、わかりやすく説明できる。	
	子育てに関する相談、援助に対応できる。	
	支援を要する保護者に対して、適切に対応できる。	
子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持に留意している。		
地域関わり	関係機関との連携のとり方を知っている。 (民生委員、子育てこども課、よちよち未来館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会ごっこでは、保護者の参加だけでなく、ファミリーで来園され楽しむことができた。</li> <li>・今年度より次園への送りシートを作成するにあたり、子育てこども課を通じて、医療機関等とも連携を取り合うことができた。</li> </ul>
	すくすくフェスタ等に積極的に参加し、子育ての相談に応じる等の子育て支援ができる。	
	実習生等の受け入れに際し、適切な助言や情報提供ができる。	
総 評	自己評価を通して、一人ひとりの保育士等が、自ら子どもへの関わり方を振り返ったことで、普段どのように子どもたちに関わっているかということ、考えることができたと思う。 6月、12月に実施して評価が低かった項目が「制止や禁止のことはばを用いないようにする」である。この問題は、全職員でお互いに注意し合い、より良い保育になるよう努めなければならない。今後の大きな課題である。 子どもが安心して過ごせる、保護者に信頼される、温かみのある保育を提供できるようにしていきたい。	